



アイブラリー通信

薬剤部 部長 齋藤寛子

“薬を服用するときは、水やぬるま湯で飲みましょう”

薬の種類によっては、食物や飲み物との組み合わせによって効果が弱くなったり強くなったり、副作用が強くなることがあります。



牛乳

冬場は風邪薬を服用することが多い季節です。解熱鎮痛剤や風邪薬を空腹で飲むと胃を荒らすことがありますので、牛乳を飲んでから服用するとよいでしょう。しかし、抗生物質(特にテトラサイクリン系ミノマイシン)やニューキノロン系抗菌剤(クラビット、ジェニナック等)は牛乳中のカルシウムと結合し吸収が悪くなり効果が減ってしまうことがあります。この場合は、牛乳を飲んでから2~3時間開けて薬を服用するようにしましょう。



ミネラル ウォーター

マグネシウムやアルシウムなどのミネラルを含むためお薬と反応し効果に影響することがあります。薬を服用する時は普通の水にしましょう。

アルコール



宴会が多いこの季節、お酒を飲んでからお薬を服用することがあります。糖尿病薬(グリベンクラミドやトルブタミドなどのスルホニル薬(SU薬)など)では、アルコールが薬の代謝(分解)を妨げ血糖降下作用が長く続き低血糖となり、意識消失(低血糖昏睡)などが起こることがあります。降圧剤もアルコールで血管が広がリアルコールを飲まないときと比べて血圧が下がりすぎて立ちくらみやめまいを起こすこともあります。薬を飲む場合、酔いがさめてから服用するようにしましょう。市販のドリンク剤にもアルコールが含有しているものもあり注意してください。

関連図書のご紹介



A 知っておこう!薬の使いかた3巻セット(汐文社) 2013年
「なんで水でのむの?」などを、豊富な写真を用いて説明

B 薬のはたらきを知るやさしい薬理のメカニズム(学研) 2011年
薬が体内でどのようなメカニズムをたどり薬理作用へ至るかを解説

C よくわかる薬の危ない飲み方、飲み合わせ(実業之日本社) 2013年
「食べ物」「飲み物」「サプリメント」「病院薬と市販薬」の組み合わせなど

患者さんから本の購入希望いただきました

『自己愛危機サバイバル 摂食障害・醜形恐怖症・自己臭恐怖症の克服・治療』中外医学社・熊木徹夫著)の購入を希望します。
→ 購入予定です

新刊コーナーに様々な事例の本を入れてください。
認知症の自動車免許更新についての資料を希望します。
→ 入り口のコーナーは本を定期的に交換しております。
認知症については国立長寿医療研究センター発行の資料を配架しましたのでご利用ください。

健康情報室(アイブラリー)は2階カフェドクリエの隣にあります。どなたでもご利用できますので、気軽にお越しください。

